

THE ROTARY CLUB OF NAGOYA-CHIKUSA



WEEKLY

名古屋 ちくさ

題字 伊藤昌石

名古屋千種ロータリークラブ
 承認 1982年 8月24日
 例会日 火曜日 12:30
 例会場 名古屋東急ホテル
 事務局 TEL763-5110 FAX763-5121
 会長 榎尾 富二
 幹事 大谷 恩
 広報・会報委員長 萩原 喜代子

No. 40

世界へのプレゼントになろう

Be a gift to the world

2015～2016年度

RI会長
K.R.ラビンドラン

今日の例会

第1596回 平成28年5月31日(火)

友愛の日

先回の例会

第1595回 平成28年5月24日(火)晴

卓話 会員 柵木 充明 君
「地震の時の災害医療救護について」

◆それこそロータリー

◆ゲスト紹介 1名

吉田副会長ゲスト 元会員 藤田 千津子様

◆出席報告

会員 37(33)名 出席 29名

出席率 87.88%

前々回 5/10(修正出席率) 93.55%

大谷幹事報告

- 1) 先週の理事役員会審議報告事項の報告
- 2) 次年度クラブ計画書の各委員会活動原稿について、本日締切です。
まだの委員長はご提出よろしくお願い致します

榎尾会長挨拶



人生・寿命も長くなり、男性80才、女性は87才が平均となりました。しかし単に長生きだけでなく、健康で長寿を全うしたいものだと思います。

現在104才、現役のドクターとしてまだ活躍している大先生の話をしてみたいです。名前は「日野原

重明」先生。1911年、明治44年生まれで京都大学を卒業後、東京の聖路加国際病院へ勤務しています。1970年福岡の内科学会へ出張時、日本航空よど号が赤軍派によってハイジャックされ、機内で他のドクターと協力して乗客の健康診断をし、無事韓国で開放された

という経験もあります。

1995年聖路加国際病院の院長の時、オウム真理教による地下鉄サリン事件が発生、通常の外来診療を中止しサリンによる大量の負傷者の救助にあたり、陣頭指揮を取りました。96年院長退職後も名誉院長として活躍を続け、2005年には文化勲章を授与されています。

2014年102歳までは元気に動き回っていましたが、心臓病が見つかり手術も困難とのことで現在は移動のみ車椅子にしているとのこと。

日野原先生の10の生活習慣、人生の心得を紹介したいと思います。

「10の生活習慣」

1. 小食、腹八分(カロリーを制限すると老化を防げる)
2. 多めの野菜と植物油、大豆製剤のレシチンを服用
3. 階段は一段飛びで
4. 早歩き
5. いつも笑顔で
6. クビを回す
7. 息を吐ききる(腹式呼吸をすると新鮮な空気をたくさん取り込める)
8. 仕事や趣味に集中して時間を有効に使う
9. 洋服は自分で購入し、おしゃれを楽しむ
10. 体重・体温・血圧を測り自分の身体は自分で守る

「人生の心得」

60歳から 腹8分、筋力をつける

70歳から 腹7分、新しいことをはじめ

80歳から よく歩き、若い者に好んで接する

90歳から 心のおもむくままに生きる

100歳から 良い友を持ち、あるがままに生きる

「名言集から」

- ・鳥は飛び方を変えることは出来ない。動物は走り方を変えることは出来ない。しかし、人間は生き方を変えることができる。
- ・自分のためではなく、人のために生きようとする時、その人はもはや孤独ではない

現在104歳になられますが講演の予定は4～5年先まで詰まっているとのこと。

皆さんも健康で長生きされることを祈っています。

◆卓話 「地震の時の災害医療救護について」

会員 柵木 充明 君



医師会の災害救護活動についてお話しさせていただきたいと思います。

戦後4度目の震度7以上を記録する地震です。1995年の阪神淡路大震災、2004年の新潟県中越大地震、2011年の東日本大震災に続く大規模地震といわれ、何となく大地震の発生する頻度が短くなってきているように思われます。

熊本地震の今日現在の死者は49名震災関連死19名程度、けが人1千人以上、避難者は最大時で20万人余、現在は1万人余と報道されています。

震災で亡くなられた方に哀悼の意を表し、お悔やみ申し上げますとともに、被害に遭われた方の回復と、1日も早い地域の復興を心からお祈り申し上げます。

一般に大災害時には被災地県の知事からの求めで警察庁が出勤し、必要があると判断すれば、直ちに自衛隊に要請がはいります。

総務省管轄の消防庁も県内から県外へ拡大して活動が始まり、自治体間の連絡によって周辺自治体から事務官の派遣も行われます。

警察、消防、自衛隊等は横の連絡がありそれぞれの組織で装備と人員を用意し、いくら現場が混乱していても、人命救助を最優先に被災地入りします。被災地では鉄道や道路も寸断されていることを想定し、ヘリや船を使ったアクセスも検討されます。地震の規模や地域によってもいろいろ異なるでしょうが、県の対策本部に集結し、横断型のチームを組んで被災地での救援活動を展開します。

医療救護はどうか。

地震が発生し、死者が二桁以上になるような場合にはまず最寄りの地域のDMAT (disaster medical assistant team) 全国の災害拠点病院にはこのDMATの設置が義務づけられています。これがいち早く、知事から厚労省経由で駆けつけます。災害時の急性期医療を担います。今回の震災の例をとれば熊本県で足りなければ九州全域、全国へと広げて行きます。

救急医療が一段落したあと、避難所や被災者が集まる所での健康管理や震災関連の疾患への備えとして医師会の災害医療チームJMAT(japan medical association team)が出番となります。災害医療の慢性期版とも言えましょうか。

JMATの構成はDMATと同じく、最低3人ひと組、医師、看護師、事務職、その他、といわれていますが、DMATにしてもJMATにしても実際には3人というより5-6人くらいのチームで行くことが多いようです。薬剤師や他の医療職がメンバーを構成し、自己完結型で出勤します。

従って、診療活動のための医薬品、医療材料は無論のこと、チームメンバーのための制服や食料、寝袋等の装具も持参することになります。ただし、発災後の期間や経過、また地域によってはこうした準備も変わります。必要とされるJMATの時期や地域によって、出勤経路

も空路をとるか陸路にするか、装備や携行物品はどうするか、こうしたことは避難地の状況、救援物資の集積具合を見ながら判断することになります。

こうした医師会単位で組織だった救援活動が始まったのは、東北大震災の時からです。

JMATという言葉もそれ以来使われるようになりまし。県医師会は3、11の時、福島県いわき市と宮城県南三陸町にも派遣しています。

6月例会内容のご案内

- 6月 7日(火) 12:30 東急ホテル 3階 錦の間
◎RCC 活動報告
樹木医カシナガ消防団 川島大次様
- 6月14日(火) 12:30 東急ホテル 3階 ルネッサンス
◎友愛の日
例会終了後 理事役員会 3階 梅の間
- 6月21日(火) 例会変更 ⇒ 18:00 松楓閣
◎最終夜間例会
- 6月28日(火) 休会

ニコボックス

藤田 千津子様(本日ゲスト)

お久しぶりです

小林 英毅

本日の囲碁会は4F桐の間です。なお広報委員の方は例会後この室の前のロビーにお集まり下さい。

柵木 充明

本日卓話を致します

熊谷 幸治郎

会員誕生日お祝い

結婚記念日お祝い

足立 一郎	福井 浩道	萩原喜代子
林 永芳	堀江 宏輝	池森 由幸
伊藤 健文	梶尾 富二	加藤 重雄
小山 雅弘	鍋野 可幸	西川 豊長
大口 弘和	太田 和孝	大谷 恩
佐野 寛	笹野 義春	鈴木 理之
鈴木 聖三	竹内 眞三	谷口 優
舎人 経昭	碓氷 美佳	山本 眞輔
吉田 玄		

計 30件

合計 87,000円

次回例会 平成28年6月7日(火) 12:30 3階 錦の間
RCC 樹木医カシナガ消防団 活動報告